

2.3 大学間連携災害ボランティアネットワーク

東北学院大学を中心とした協働プログラムである「大学間連携災害ボランティアネットワーク」では、今年度も宮城県内を中心に夏休み期間中にさまざまな支援活動を実施した。本学からは今年度も仙台七夕まつりに10名の学生を派遣した。

参加者は幼少時を東北で過ごした学生、親類が東北に住んでいて何度も七夕まつりに足を運んでいた学生がいる一方で、初めて東北に足を運んだ学生などさまざまであった。東日本大震災から5年以上経過し、震災の傷跡を探すのは困難なほど仙台市内は復興しているが、三大祭りとも四大祭りともいわれる東北夏祭りの一つである仙台七夕まつりには被災した方も大勢来場する。出発前の事前学習ではこうしたことも話し、誠実に対応するように伝えたくて、現地で活動した。

ボランティア活動は、8月7日（日）の夕方から6時間と、8日（月）の10時から7時間（休憩を含む）おこなった。揃いのTシャツを着用して会場内誘導やエコステーションでのゴミの分別作業など、活動するようすには頼もしさも感じたが、事後に聞いたところでは、期間中に開催されるさまざまな企画や会場である^{こうとうだい}勾当台公園周辺の地理について聞かれることが多かったとのことであった。事前学習の内容を再検討する必要性を感じた。（職員 波多野洋行）

◇仙台七夕まつり

目的	東北学院大学を中心に2011年夏に立ち上がった「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に本学も継続的に参加している。その活動の一つ、仙台七夕まつりでのボランティア
活動内容	会場美化、短冊の作成補助、うちわ配り、お客様対応
参加人数	10名

実施概要

- ・活動期間と場所：8月7日16時～22時と8日10時～17時、宮城県仙台市 勾当台公園市民広場、定禅寺通り
- ・主催：仙台七夕まつり協賛会



感想・活動を通して得た学び

今回の仙台七夕まつりのボランティア活動を通して、現地の方々やスタッフ、他大学の方々と関わり、お話ししつつ連携して作業を進めることができたので、大変充実した内容だったと感じる。特に印象に残ったのは、会場の資源物（缶、びん、ペットボトル等）を分別していたことである。私たちも実際に会場のエコステーションで分別を呼びかけた。人が多く集まる仙台七夕まつりでの資源物の処理は、避けては通れない課題である。その課題に向き合うことでごみを減らし、多くの人に楽しんでもらえる美しい祭りが続いていくことに繋がることを実感した。

今後に向けて

復興をさらに前進させようとするボランティア活動の一環として参加できたことは、とても有意義であった。今後も継続してお手伝いできればと思う。（法学部法律学科）